

自 己 評 価 表

愛媛県立八幡浜高等学校 定時制
学 校 番 号 (3 4)

教育方針	1 校訓「勉学 礼儀 健康 融和 奉仕」を基調として、国家社会の有為な形成者としての資質を養う。 2 社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り開く確かな学力を育成する。 3 個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。 4 安全・安心で充実した教育環境のもと、健康的に社会で生きる力を育む。	重点目標	「随処作主」（随処に主と作す）－誇りと自信を持ち積極的にチャレンジする－ 1 学校生活全般で、他を思いやる豊かな心と社会への対応力を育てる。 2 就労を奨励し、勤労観、職業観、社会性を育て、進路実現を支援する。 3 個々の能力に応じた主体的で対話的な深い学びを通して、積極的に挑戦し探求する生徒を育成する。
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	確かな学力の育成	個々の生徒の習熟度を把握し、基礎学力の定着を図る。	B	基礎・基本を重視した授業が実践されているが、基礎学力の定着に努力を要する生徒もいる。	基礎学力の定着に注力する。
		指導方法と教材を工夫し、生徒による授業評価アンケート（5段階評価）で授業満足度100%を目指す。 A：4.4以上 B：3.7～4.3 C：3.0～3.6 D：2.8～2.9 E：2.7以下	A	生徒による2回の授業評価アンケートでは、総平均がそれぞれ4.6であり、概ね目標は達成されていると考える。	指導方法と教材の研究を更に工夫する。
	言語能力の育成	自由な意見が交換できる授業を展開し、特に言語活動を重視する教科において全生徒の発言機会を設ける。	C	多くの授業で双方向型の授業が展開されているが、コミュニケーションを図ることが難しい生徒もいる。	日常的な話題を授業内容に関連させるなど、生徒とのコミュニケーションを重視した授業の実践を図る。
特別活動	学校行事、各種大会への積極的な参加	集団への所属感や連帯感を養いながら各種学校行事、定通制総合体育大会や生活体験発表大会に参加できる生徒の育成を目指す。	B	結果だけではなく、取り組む過程において主体的に参加、活動できる生徒が増えた。	次年度も更に主体的に参加、活動させていく。
生徒指導	節度ある生活習慣の確立	5分前行動を定着させ、規則正しい学校生活を送らせる。	B	次の授業に向けて素早く切り替えることのできる生徒が増えた。	5分前行動を定着させるとともに、出席率を向上、遅刻率を減少させ、規則正しく学校生活を送らせていく。
	礼儀を重んじる態度の育成	挨拶を交わすことの必要性や大切さを理解させながら、TPOに応じた挨拶を定着させる。	B	年度を通じて積極的に挨拶をしたり、大きな声で挨拶ができるようになっていく。	学校内でのあいさつにとどまらず、学校外でのあいさつの大切さも指導していく。
	生徒理解の充実	年間6回以上の個人面接を行う。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：2回以下	B	ホームルーム担任による面談を5回以上実施した。また、教科担任による声掛けにより、生徒理解に努めることができた。	生徒と教員間だけでなく教員同士の情報交換も大切にし、生徒理解に努める。
	交通安全指導の充実	交通ルールの遵守やマナーの向上により、事故0・違反0を目指す。	B	交通事故0、交通違反0を達成することができた。	次年度も授業、面談、声掛けを充実することで交通ルール、マナーを守らせる。
進路指導	生徒の適性と進路希望を踏まえた進路指導の充実	高校生のための学びの基礎診断（八定BASIC）により自己理解を深める。また、様々な進路情報を適宜提供し、進路への関心を高める。	C	講演等の実施で進路を考える機会を設けたが、情報量が不足していると感じる生徒・保護者もいた。	卒業学年だけでなく、全学年に対して一層の情報提供を図る。
	生徒の希望進路の実現	保護者やハローワークとの連携を深めながら、生徒の就労を支援し、就労者を増やす。進路に対する意識啓発を行い、進路決定100%を進学及び正規雇用での就職で実現する。卒業生予定者3名のうち進路決定者、A：3名 B：2名 C：1名 D：0名	B	保護者やハローワークとの連携を密にして生徒の就労支援を行い、就労率は7割である。卒業予定者3名のうち、進路決定者は2名で、希望通りの進路実現をした。残り1名は現在も就職活動を続けている。	進路に対する意識啓発の中で、生徒に主体性を持たせる指導が必要である。保護者、ハローワークに加えて、本校全日制や定時制職員間の連携を更に図る。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	研修に積極的に参加し、新たな資料も活用して生徒の発達段階に応じた人権・同和教育が実施できるよう、指導力向上に努める。	A	校外研修に積極的に参加することができた。また、人間の輪や会報だけでなく電子黒板や人権啓発DVDを活用しホームルーム活動を実施した。	今後も校外研修に積極的に参加し、指導力向上に努める。
		研修等で得た情報を活用して、授業やホームルーム活動を実施し、生徒の人権意識を高める。	B	生徒が親しみやすいような人権・同和教育ホームルーム活動を実施することができ、人権意識を高めることができた。	授業やホームルーム活動の場面以外でも生徒の人権意識を高められるように声掛けを行う。
保健管理	健康意識の向上	手洗い、うがいや手指消毒など感染症対策を徹底させ、健康への意識向上を図る。 養護教諭と連携して、「保健だより」を発行し、健康の保持増進を図る。	B	手洗いなどの感染症対策を徹底させ、毎日の自己の体調を記録することで、健康への意識を向上させることができた。	食や運動の重要性を理解させ、健康の保持増進に努める。
安全管理	防災意識の向上と緊急時の対応	各学期の防災避難訓練を通して、緊急時の対応を周知徹底するとともに、定期的に防災関係の情報を提供する。	B	防災避難訓練を通して、緊急時の対応を周知徹底させることができた。	定期的に情報提供を行うとともに、災害に対する備えを徹底させる。
特別支援教育	校内研修会の実施	各種研修会報告で得た情報を全教員が共有して、特別支援教育に対する理解を深め、実践力を高める。	B	特別支援教育に関する情報を共有し、理解を深めることができた。	各種研修会で得た情報を全教員で共有して、特別支援教育に対する理解を更に深める。
	生徒の実態把握及び関係諸機関との連携	少人数のメリットを活かし、生徒一人ひとりの実態把握を早期に行う。関係諸機関と連携して生徒の実態に適した支援の実践に努める。	B	生徒の状況について情報を共有し、外部機関とも連携して支援の実践に努めることができた。	関係諸機関との連携を更に深め、生徒の実態に応じた支援に努める。
研修	教職員の資質の向上	年1回以上、校内外の各種研修会に参加し、研修内容を教員間で共有する。また、ICT機器を積極的に用い、ICT活用能力の向上を図る。	A	全教員が各種研修に参加することができた。また、ICT機器の活用法を模索しながら、授業力の向上を図ることができた。	各教科の特性に合わせて、応用できるような研修を実施し、授業力向上を図る。
保護者との連携	広報活動の充実	「八定だより」や学校ホームページを通じて、教育活動に関する情報を提供する。	A	毎月「八定だより」を発行し、随時ホームページを更新して、情報発信することができた。	「八定だより」とホームページの内容を更に充実させて情報の提供に努める。
		保護者懇談会や家庭訪問を着実に実施する。また、保護者との信頼関係を築くために、普段から情報交換を行い、学校と家庭の連携を図る。	B	保護者懇談会や家庭訪問を実施するとともに、必要に応じて保護者と情報交換を行うことができた。	普段から保護者との連絡を密にし、学校と家庭との連携に努める。
業務改善	適切な勤務時間と休暇取得による働きやすい職場づくり	休息時間を確保したうえで教職員の勤務時間を守り、休暇をとりやすい環境をつくる。全教職員が年間7日以上以上の休暇を取得し、心身のリフレッシュに努める。	A	休暇を取りやすい雰囲気を作り、全教職員が7日以上以上の休暇を取得することができた。	長期休業中の休暇に加え、平日の時間休をとりやすい状況及び雰囲気づくりに努める。
	職場環境の整備	健康相談等を定期的に行い、業務の均等化や教職員の肉体的・精神的疲労の軽減を図る。職員室の整理整頓を行う。	B	互いに協力して業務を行うことはできたが、清掃時間の廃止に伴い、定期的な職員室の清掃機会が持てなかった。	全員で業務を行うという意識の高揚と体制の強化を図り、定期的な職員室の清掃時間を設ける。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。